

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査

(1) 取組名	地域発案型映画づくりを起爆剤とした活性化事業の実験的試み		
(2) 実施団体名	特定非営利活動法人 茨城の暮らしと景観を考える会	(3) 対象地域	旧水戸藩の主な地域である水戸市と本県東北地域
(4) 代表団体名		(5) 推薦団体名	茨城県商工労働部観光物産課、水戸市

(6)実施した取組の内容	取組①	地域発案型映画づくりの具体化に関する取組	
	実施主体	『桜田門外ノ変』映画化支援の会	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		①プロデューサーや制作会社と連絡・調整(9月) 取組の目的:映画づくりの具体化を促進、確実にする。	①プロデューサーや脚本家と連絡・調整(9月～2月) 取組の結果:監督に「男たちの大和」の佐藤純彌氏が決定。映画界久々の大型時代劇に向けさらに検討。
	取組②	地域資源の再発見に関する取組	
	実施主体	『桜田門外ノ変』映画化支援の会	
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
		①シンポジウムの開催 ・キックオフ・シンポジウム(9月) ・いばらき読書フェスティバル2008記念講演会(10月) ・『桜田門外ノ変』映画化が創る茨城の未来(2月)。 ②江戸文化歴史検定茨城会場の運営(11月) ③郷土カルタの企画づくり ④歴史講演会(9月～2月) ・連続講座(6回) ・テーマを設けた講演会(6回) ・地域ごとの講演会(6回) ⑤歴史を訪ねる(9月～2月) ・博物館等を巡る(6回) ・史跡を訪ねる(2回) ・借楽園、弘道館等を巡る(6回) ⑥水戸八景ツーリング(10月) ⑦自然と文化講演会(9月～2月) ・ロハス講座(6回) ・東北の自然講座(5回) ⑧自然と文化に親しむ(9月～2月) ・東北の自然を探訪(5回) ・さとやま学校の楽しみ ・郷土の食文化に親しむ(4回) ⑨映画関連イベントの開催(9月～2月) ・監督や俳優との交流会 ・ロケ地巡りツアー ・映画づくり進捗報告会(6回) 取組の目的:映画づくりの機運を盛り上げるとともに、地域の歴史・文化、自然を再発見し、郷土に愛着を持たせる。	①シンポジウムの開催:キックオフ・シンポジウム(9月)、いばらき読書フェスティバル2008記念講演会(10月)、『桜田門外ノ変』映画化が創る茨城の未来(3月)を開催、来場者数約1000人。 ②江戸文化歴史検定茨城会場の運営(11月):地元開催の「水戸検定」とのバッティングを避け、開催告知を遅らせたため、申込者が2名のみだったため中止。 ③郷土カルタの企画づくり:事務局内に検討委員会を設け、具体的な企画書を取りまとめた。 ④歴史講演会(9月～2月):連続講座(6回)、テーマを設けた講演会(6回)、地域ごとの講演会(6回)を開催、来場者数約1200人。 ⑤歴史を訪ねる(9月～2月):博物館等を巡る(8回)、借楽園、弘道館等を巡る(4回)、史跡を訪ねる(2回)を開催、参加者数約500人。 ⑥水戸八景ツーリング(10月):サイクリング協会の協力により開催。参加者約50人、全員100km完走。 ⑦自然と文化講演会(9月～2月):ロハス講座(2回)、東北の自然講座(5回)を開催、来場者約250人。 ⑧自然と文化に親しむ(9月～2月):東北の自然を探訪(5回)、郷土の食文化に親しむ(4回)を開催、参加者約250人。さとやま学校の楽しみは、既存プログラムへの共催を予定したが、調整不十分のため中止。 ⑨映画関連イベントの開催(9月～2月):監督が決定が年末にずれ込む。交流会やロケ地巡りツアーは次年度事業に繰り越す。映画づくり進捗報告会に変えて毎週、マスコミ向けプレスリリース(26回)を作成、茨城県庁と水戸市役所の記者クラブに配布している。 取組の結果:3000人以上もの多くの人がイベントに参加し、地域の歴史・文化、自然を再発見するのに役立った。マスコミの取材も頻繁にあり、郷土愛の醸成と同時に、地域全体として映画づくりに向けた機運も高まった。また、多様なイベント、様々な地域でのイベントを通し、多くの地域住民、事変関係者、各種団体との連携も深まった。
	取組③	映画の原作(吉村昭「桜田門外ノ変」)活用に関する取組	
	実施主体	『桜田門外ノ変』映画化支援の会	
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果	
	①原作感想文、ロケ地、俳優推薦コンクール(9月～10月) ②「この場面でこれ使って！」コンクール(10月～12月) ③事変・幕末の水戸藩関連情報募集(9月～12月) 取組の目的:原作を活用し、地域を学び、ロケ支援につなげる。また多くの人が映画づくりに関われる仕掛けとする。	①原作感想文、ロケ地、俳優推薦コンクール(9月～2月) ②「この場面でこれ使って！」コンクール(10月～2月) ③事変・幕末の水戸藩関連情報募集(9月～2月) 取組の結果:監督決定が遅れたことと、原作が難しかったためか、応募者が少ない。募集期間を延長し、映画づくりの具体化に合わせた応募に期待。事変関連の情報については、関係者ご遺族を中心とした情報提供が相次いでいる。また、自治体からのロケ地紹介の連絡も多数あった。	

取組④	映画のロケ支援に関する取組	
実施主体	『桜田門外ノ変』映画化支援の会	
実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	①ロケ地推薦:ロケ地下見・推薦 ②ロケ準備:エキストラ募集・オーディション、地元の俳優オーディション、ロケ準備、受け入れ体制作り ③ロケ支援:ロケ隊受入れ、炊出し、差入れ、小道具提供 取組の目的:地元資源(風景、食材、特産品)の活用促進。	年末によりやく監督が決定、スケジュール的には大きくずれ込んでいる。ロケ地推薦やロケ準備、ロケ支援については、次年度事業に繰り越すこととした。 取組の結果:取組を実施しなかったため結果は出ていない。しかし、エキストラやロケ地、俳優としての起用などについての問い合わせは、多数あった。
取組⑤	人材育成に関する取組	
実施主体	『桜田門外ノ変』映画化支援の会	
実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	①人材育成:専門家による研修(10月~12月) ②接遇研修:専門家による研修(2月) 取組の目的:担い手づくり、ホスピタリティ醸成、リーダー、インストラクター育成。	①人材育成:新しい観光の創造~全国の動向と事例に学ぶ~(2月)を開催。 ②接遇研修:地域の「おもてなし」~観光カリスマと群馬の事例に学ぶ~(3月)を開催。 取組の結果:地域における関心は高く、また質の高い講師陣と茨城県観光物産課との連携により、200人以上が参加した。
取組⑥	他事業との相互連携に関する取組	
実施主体	『桜田門外ノ変』映画化支援の会	
実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	①多様な主体、多様な事業、多様な分野との連携促進のための連絡・調整活動(9月~2月) 取組の目的:多様な主体、多様な事業、多様な分野との連携促進のため。	①ほぼ毎日、多様な主体、多様な事業、多様な分野との連携促進のための連絡・調整活動を展開(9月~2月)。 取組の成果:年度半ばからの連絡・調整活動であったため、具体的な共催事業等が実現した例は少ないが、各主体地域に対する、活動趣旨や活動内容の説明は行き届き、今後の連携に期待できる。
取組⑦	情報の受発信に関する取組	
実施主体	『桜田門外ノ変』映画化支援の会	
実施内容、 実施結果	当初提案により予定していた計画	実際の取組内容及びその結果
	①ホームページ開設、機運醸成ツール作成 ②各種イベントチラシとかわら版作成 ③当時を模した新聞作成、発行 ④観光コースや商品開発・ロゴ使用の説明会を開催 ⑤上記取組について企画・運営を実施 取組の目的:関連情報受発信のためプラットフォームづくり	①ホームページとモバイルサイト開設、メルマガ発行、機運醸成ツール作成 ②各種イベントチラシ67種類とかわら版(7回)作成 ③当時を模した新聞を3回(12月12日、2月4日、3月3日)作成、発行 ④ロゴマークは決定したが、観光コースやロゴ使用等の説明会は、映画づくりの遅れから、見送った ⑤上記取組について企画・運営を実施:事務局スタッフを専属で貼り付けた。 取組の成果:多様な媒体の活用により、多くの人の認知度がアップ、情報受発信が予想以上に広がった。
(7)実施体制	平成20年度の取組実施における体制・役割分担	取組の実施を踏まえた反省点
	<ul style="list-style-type: none"> ・NPO茨城の暮らしと景観を考える会 地方の元気再生事業の事務局として、各取組の管理を行う。 ・『桜田門外ノ変』映画化支援の会 地方の元気再生事業の全ての取組の主担当。 ・関係自治体、財団法人グリーンふるさと振興機構 各取組に対する参加、支援、共催、後援などを行う。 ・茨城県商工労働部観光物産課、企画部地域計画課、水戸市、関連諸団体 各取組に対する参加、支援、共催、後援などを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各取組に対し、NPO茨城の暮らしと景観を考える会が主体的に事業を進めてゆく予定であったが、体外的分り易さから、平成20年8月に発足し、当NPOが事務局を務める、『桜田門外ノ変』映画化支援の会が各取組の主体となった方が良く、と判断した。支援の会の構成メンバーに、旧水戸藩の市町村のみならず、茨城県内の主要団体の多くが含まれているからである。支援の会が前面に出て取組を進めたことで、関連団体はもとより地域からの応援、協力が得やすくなった。 ・事務局スタッフに、茨城県商工労働部観光物産課、ならびに企画部地域計画課フィルムコミッション推進室の職員が参加してくれたことにより、茨城県との連携を密に取組を進めることができた。 ・さらに、NHK水戸放送局、年末からは地元の茨城新聞の記者にもスタッフとして加わっていただくことで、マスコミとの的確な連携体制も構築できた。

(8)取組により得られた成果	○成果1→	水戸市と県北地域の観光入込客数の増加、茨城県の地域ブランド力の向上	
		H19(H18) H20(当初予定していた目標)	
	観光入込客数	1,400万人 地域ブランド力 44位	観光入込客数 1,700万人 地域ブランド力 40位
	H20(実際に得られた成果)		
	水戸市並びに県北地域における観光入込客数は、昨年度同時期比で、確実に増加している。茨城県の地域ブランド力については、映画関連情報や支援の会の取組が全国各誌に掲載されたり、多数のインターネット記事で発信されていたり、また、滋賀彦根新聞やKBS京都放送、新潟日報社、NHKなどからの取材の申入れなどにより、確実に向上している。		
	○成果2→	県内ロケ支援作品数、撮影隊経済波及効果	
	H19 H20(当初予定していた目標)		
ロケ支援作品	355、撮影隊経済波及効果 5.2億円	ロケ支援作品 380、撮影隊経済波及効果 5.8億円	
H20(実際に得られた成果)			
茨城県におけるロケ支援作品数は、昨年度同時期比で、順調に推移している。映画界においても、東京映画祭事務局からブースの出展依頼があるなど、映画化への取組は確実に広がっている。			
(9)今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点	<p>・映画づくりの具体化について、難航し、ようやく監督が決定した。今後、映画づくりを確実なものとするために、プロデューサー等との継続的な連絡・調整が必要となる。</p> <p>・地域資源の再発見について、多くの方に参加いただいた。会場の関係で参加者数に制限があったため、今後、その成果を冊子に取りまとめる等、一層の拡大普及に努める必要がある。</p> <p>・映画の原作活用については、地域からの反応は鈍かった。新潮社から協力要請があったところから、今後は連携を深め、組織的な対応による効果を期待したい。</p> <p>・映画のロケ支援については、映画づくりの具体化の遅れから、年度内取組は不可能となり、次年度へ繰り越すこととした。</p> <p>・人材育成については、茨城県商工労働部観光物産課の協力により、質の高いセミナーが開催でき、来場者も多く、また満足度も高かった。</p> <p>・他事業との相互連携については、下拵えができた状態である。今後、年度の早い段階からの連携模索が必要となる。</p> <p>・情報の受発信については、ホームページ、携帯電話、チラシ、ポスター、のぼり、パンフレット、かわら版、新聞、ラジオ、テレビ、タウン誌など、多種多様なメディアを活用したことで、予想以上の成果を上げることができた。今後とも継続的な取組が必要である。</p>		
(10)平成21年度以降の活動の見込み	当初提案に予定していた平成21年度以降の展開	今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度	
	1. 当初提案になし(映画のロケ支援)	1. 映画のロケ支援(H21年度) 実施主体:『桜田門外ノ変』映画化支援の会	
	・映画への地元資源(風景、食材、特産品)の活用促進と、多くの人に人に参加意識を持ってもらう	①ロケ地推薦:ロケ地下見・推薦 ②ロケ準備:エキストラ募集・オーディション、地元の俳優オーディション、受け入れ体制づくり ③ロケ支援:ロケ隊受入れ、炊出し、差入れ、小道具提供 [活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額400万円)]	
	2. フィルムや映画関係者の利活用(H21年度)	2. フィルムや映画関係者の利活用(H21年度) 実施主体:『桜田門外ノ変』映画化支援の会	
	・ロケ後の盛り上がりを継続させ、映画鑑賞へつなぐ	①映画関係者との連絡・調整 ②ロケ見学ツアー、ロケ地巡りツアー ③ロケ風景写真展 ④映画関係者講演会 ⑤映画関係者・俳優との交流会 ⑥茨城出身映画関係者の作品紹介 ⑦『桜田門外ノ変』映画化関係者の作品紹介 [活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額700万円)]	
	3. 地域資源の活用とロケ地周遊ルートの確立等(H21年度)	3. 地域資源の活用とロケ地周遊ルートの確立等(H21年度) 実施主体:『桜田門外ノ変』映画化支援の会	
・H20年度の効果のあった地域資源活用の取組を継続し、郷土愛の醸成を促進する	①H20年度の歴史講演会などの成果を冊子に取りまとめ、より多くの方にご覧いただく ②『桜田門外ノ変』関連シンポジウムの開催 ③関連情報・資源マップと手引書の作成 ④おもてなし講座の開催 ⑤ロケ地周遊ルートの確立:ロケ地の記録・マップづくり、周辺資源の洗い出し、モデルコースづくり、モデルツアー実施 [活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額700万円)]		
4. 100万人の映画鑑賞運動(H21年度)	4. 100万人の映画鑑賞運動(H21年度) 実施主体:『桜田門外ノ変』映画化支援の会		
・地域が舞台の映像を皆で見に行くことで、地域の魅力を再確認、郷土愛の広がりを促進する	①支援の輪、相互連携の輪を広げる組織づくり ②観光コースや商品開発・ロゴ使用の説明会を開催 ③映画づくり進捗報告会の開催 ④お土産品開発・コンテスト、記念グッズ作成 ⑤映画の原作活用イベント [活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額500万円)]		
5. 情報の受発信(H21年度)	5. 情報の受発信(H21年度) 実施主体:『桜田門外ノ変』映画化支援の会		
・関連情報受発信のためプラットフォームづくり	①ホームページとモバイルサイト運営、メルマガ発行、機運醸成ツール作成 ②展示紹介コーナーの開設 ③各種イベントチラシ、ポスターとかわら版(毎月)作成 ④水戸藩幕末新聞の発行 ⑤上記取組について企画・運営を実施 [活用を希望する制度:上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(想定金額800万円)]		

◆主な実施取組の内容◆ (主体はいずれも『桜田門外ノ変』映画化支援の会)

情報の受発信に関する取組

ポスター、のぼり、パンフレット、チラシ、HP、新聞・テレビ・ラジオなど、多様な媒体の活用で、認知度がアップ、情報受発信が予想以上に広がった。



地域発案型映画づくりの具体化に関する取組



映画の具体化に向け、プロデューサーや脚本家と連絡・調整。取組の結果：監督に「男たちの大和」の佐藤純彌氏が決定。映画久々の大型時代劇に向けさらに検討。



映画の原作活用に関する取組

原作感想文やロケ地推薦コンクール、小道具推薦などを実施。映画化の熟度が低かったため、応募者は今後に期待。



地域資源の再発見に関する取組



50回以上の歴史・自然・文化イベントに3000人以上が参加。地域の再発見に役立った。マスコミ取材も頻繁で、郷土愛の醸成と同時に、映画づくりに向けた機運も高まった。



人材育成に関する取組



質の高い講師陣と茨城県観光物産課との連携により、多数の参加者。

他事業との相互連携に関する取組

共催事業等が実現した例は少ないが、各地域に対する、活動趣旨・内容の説明は行き届き、今後の連携に期待。



◆取組実施による成果・今後の展開◆

- ・映画づくりの具体化について、ようやく監督が決定。今後、より確実なものとするために、プロデューサーとの継続的な連絡・調整を進め、21年度中のロードショーを目指す。
- ・地域資源の再発見について、効果的な活動ができた。今後、その成果を冊子に取りまとめる等、一層の拡大普及に努める。ロケ地周遊ルートの実現なども進める。
- ・映画のロケ支援については、映画づくりの具体化の遅れから、21年度に繰り越した。今後、ロケ支援と、フィルムや映画関係者の利活用を進め、一層の機運醸成に努める。
- ・人材育成については、質の高い「おもてなし」セミナーが成功。21年度も継続的に実施し、地域での受け皿づくりを推進する。
- ・他事業との相互連携については、21年度の早い段階からの連携模索を進める。また、その連携の輪をベースに、100万人の映画鑑賞運動を進める。
- ・情報の受発信については、HP、チラシ、ポスター、のぼり、パンフレット、かわら版、新聞、ラジオ、テレビ、タウン誌など、多種多様なメディア活用が成功。継続的に取り組む。